

# 06:59

It's a brand-new day.

 <http://www.yuukiuryu.com/>  @yuukiuryu  /yuukiuryuphoto

©2018



2018 小樽・鉄路・写真展  
2018.9.3-17  
旧手宮線跡地(北海道小樽市)

ウリュウ ユウキ  
Yuuki URYU

晩夏の小樽へ、そして『2018 小樽・鉄路・写真展』へようこそ。138年前に開業した、北海道で最も古く、日本で3番目に長い歴史を持つ鉄路、旧手宮線。この街の昔と今が一本のレールでつながる場所を舞台に開かれる野外写真展に、今年も写真を持って帰ってきました。

旧手宮線は、港を目指して、そして港から北海道の津々浦々を目指して建設されました。1985年の廃止からすでに30年以上。今のこの場所の眺めから列車が走っていた時代を想像することは年々難しくなっているかもしれませんが、2年前に終点の手宮駅跡まで延びた遊歩道を歩くと、改めてこの鉄路が小樽にとっての背骨であり続けているのを感じることができます。そして、ここから数分歩いて運河を越えると、港があります。

この写真を撮ったのは、去年の9月6日、午前6時59分。  
会期中24時間開放している『鉄路展』。その明け方の眺めを見に来た時の、夜明けの港です。港内で夜を明かしたであろう船が出て行こうとしています。  
埠頭の向こうに一本の線のように見えるのは、港と街を一世紀守り続けてきた防波堤。いろいろな港町を旅してきましたが、ここまで長い防波堤の姿は他にない気がします。  
その内側で水面は常に穏やかで、しかし少しずつ表情を変えながら、この港の変わることにない景色を作っています。  
移り変わる時間と時代、出船入船、そして旅人。小樽の街並みも変わっていきます。港は変わることなく、ここで待っているのです。  
そしてまた、新しい一日が始まります。

結び合いながらいくつもの朝を迎えてきた港と街。小樽は無数の一人ひとりの旅人が形作ってきた街だと思います。近くから遠くからやってくる人も、ここで迎えて見送る人も、みな旅人です。あなたにとっての小樽は、どんな景色の街ですか。街を歩き、賑わいから少し離れたところも通ってみたりして、自由に感じてみてください。

この街のどこかに、一枚の写真で伝えたい景色がきっとあります。

2018.9.3 ウリュウ ユウキ

1976年生まれ。個展・グループ展の他、デザインの仕事も。  
10月1日～31日、札幌「ファビュラス」で個展を開催する。

